



令和7年度 愛知県通いの場取組事例集



愛知県福祉局高齢福祉課地域包括ケア・認知症施策推進室

※本事例集に掲載の情報は2026年2月時点のものです。

通いの場ってどんなところ？

高齢者の方も地域の皆さんも、公民館や施設の空きスペースなどに定期的に集まって、おしゃべりや体操、趣味活動などを楽しみながら、「健康づくり」「生きがいづくり」「仲間づくり」の輪を広げる場です。

どんな活動をしているの？

通いの場は住民主体の自由な活動の場であり、その活動内容は、体操、茶話会、趣味活動、認知症予防、農作業などさまざまです。

愛知県では、通いの場の活動を多くの方に知っていただくため、魅力的な通いの場の取り組みを募集し、その活動事例を動画や資料にまとめています。

以下のページで、過去の募集に応募いただいた通いの場の活動事例を紹介しています。

【愛知県 HP】通いの場の活動事例の紹介ページ

<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/chiikihoukatu/kayoinoba-activities.html>



通いの場の効果と機能

通いの場の活動に参加することで、心身機能の維持向上が期待されるだけでなく、活動を通じて新しい生きがいや楽しみが増えたり、地域交流により孤立・閉じこもりの予防にもつながります。

また、住民同士が交流することで、地域の支え合いの意識が醸成される地域共生の場でもあります。



<通いの場の概念図> 厚生労働省「通いの場の課題解決に向けたマニュアル」より引用

令和7年度愛知県通いの場取組募集について

1 概要

本事例集への掲載、動画制作・発信、県主催「通いの場フォーラム」への出演などを通じて、通いの場の認知度向上と活性化を図ることを目的として、県内で実施されている通いの場の取組を募集しました。
動画を制作する通いの場団体は、応募団体の中から有識者6名による選考委員会を経て決定しました。

2 応募対象

以下のすべての条件を満たす、愛知県内で活動している通いの場の運営団体が対象です。

- (1) 介護予防や健康づくりにつながる取組を行っていること
- (2) 住民が主体的に取り組んでいること
- (3) 原則、月1回以上の活動実績があること
- (4) 過去の愛知県の通いの場の取組募集において、選出歴がないこと

※市町村からの財政支援の有無は問いません。

※※企業等が運営する場合でも、住民が主体的に参画していれば応募可能です。

3 募集取組

2部門に分け、通いの場の活動の参考となる取組を募集しました。

部門	取組内容
活動継続部門	<ul style="list-style-type: none">✓ 新しい参加者を呼び込む取組✓ 参加継続を促す取組✓ 男性が参加しやすい取組✓ 担い手(後継者等)不足の解消に向けた取組✓ 他の世代や多様な住民との交流✓ 障害者等、他の分野との交流✓ その他、特色のある取組
リハビリテーション専門職の活用/支援が必要な方の参加に向けた取組部門	<ul style="list-style-type: none">✓ リハビリテーション専門職が参画し、参加者のうち、フレイルや要介護リスクが高い方に対する個別の支援を行っている取組✓ 支援が必要な参加者を通いの場に受け入れるための取組

4 募集期間

令和7年8月22日(金)～10月24日(金)

5 応募方法

WEBフォーム又は応募資料をメール・郵送のいずれかの方法で送付(応募は1団体につき1件まで)

基本情報

- **主な活動場所**
名古屋市中区在宅サービスセンター
- **主な活動内容**
ボッチャのゲームを対戦し交流する
- **運営主体**
ボランティア、中鯨城会
- **活動開始時期**
2022年5月
- **開催頻度**
月1回
- **参加費の有無**
あり(100円/1回)
- **運営資金**
参加費
- **お問い合わせ**
中区社会福祉協議会(052-331-9951)

取組の概要

ユニバーサルスポーツ「ボッチャ」を通して身体を動かし、交流を深める活動を行っています。ボッチャは、性別、年齢、障がいの有無に関係なく誰でも楽しめるので、多様な住民が集まり、新しい交流が常に生まれています。活動母体である鯨城会のメンバーにも新規参入を勧めています。

取組のきっかけ

名古屋市高年大学鯨城学園の卒業生のボランティア活動先になるように、さらにその場が地域住民の憩いの場となり、「介護予防・健康づくり」「仲間づくり」「生きがいづくり」につながればと思い、高齢者サロンを始めました。

取組の結果

- ・ボッチャはゲーム性があるので、男性の方も楽しみながら参加することができます。
- ・2人1組のチームをつくるので毎回違う方と交流を深めることができ、継続的な活動を通じて一体感が生まれています。
- ・介護予防や健康づくりにもつながるように、準備体操としてラジオ体操を行ったり、ボッチャのゲームが終わった後は、参加者さんがボールを片付けたりと体を動かすことを大切にしています。
- ・運営ボランティアの多くは、ボッチャ認定審判員の資格を取得しており、地域行事や他のサロンなどでも審判をするなど活躍の場を広げています。



<選考委員からのコメント>

- ・鯨城学園 OB という共通基盤を生かしつつ、地域住民、他区の住民、障害がある方まで受け入れ、高齢者の社会参加や孤立防止に大きく貢献している。この会の活動が先駆けとなり、ボッチャの会が立ち上がるなど、波及効果が出ている点も素晴らしい。
- ・多世代が参加しやすい今流行のボッチャ(緩いニュースポーツ)に着眼され、展開次第ではその活動の中から多様な通いの場に広がっていく可能性を秘め、誰もが取り組み、時流にも合っていると思いました。指導者養成や他流試合等横展開が進めば更なる広がりが期待できると思います。

基本情報

■ 主な活動場所

古民家

■ 主な活動内容

地域住民の交流

■ 運営主体

地域福祉推進協議会

■ 活動開始時期

2024年4月

■ 開催頻度

月2回

■ 参加費の有無

あり(300円/1回)

■ 運営資金

市サロン運営助成金、区サロン活動助成金、参加費など

■ お問い合わせ

名東区社会福祉協議会(052-726-8664)

取組の概要

古民家を活用し、名古屋の喫茶文化でもあるモーニングの提供を通じて、男性も参加しやすい雰囲気が大人気！交流にとどまらず高齢者をはじめ地域住民の活躍の場となるような通いの場を運営しています。

取組のきっかけ

地域で親しまれた古民家のお蕎麦屋さんが閉店し、店主の空き家にはしたくないという思いを受け、学区役員やボランティア、社協職員が話し合いを重ね、既存のサロンに来られない人も参加しやすいサロンを立ち上げました。

取組の結果

- ・ボランティアの活動を見て、参加者から積極的にお手伝いをされるようになりました。
- ・閉じこもりがちだった高齢者が、サロンの厨房のお手伝いをきっかけに役割をもち、一度も休まず参加し、他のボランティアとも交流できるようになりました。
- ・夏休みに子どもとの交流会を開き、かき氷やお菓子のつかみ取り、紙芝居を開催。子どもと大人の交流のきっかけとなり、子どもの見守りにつながりました。



<選考委員からのコメント>

- ・空き家(古民家)を活用した通いの場取組のモデルとなる活動であると考え、お店特有の空間をうまく活用した交流ができています。
- ・高齢者が担い手として感謝されることに喜びとやりがいを見出しており、自己肯定感、自己効力感の向上と、介護予防につながる素晴らしい循環を生み出している。
- ・空き家対策というべきか地域の文化財的建築としての財産の活用は他の自治体でも行政手段として参考になる取組です。
- ・家主さんの想い、そして地域の皆さんの想いを一つに、未永く大切にしていってください。

基本情報

- 主な活動場所
定水寺公民館
- 主な活動内容
町内会員のふれあいの場の提供
- 運営主体
有志
- 活動開始時期
2023年6月
- 開催頻度
月4回
- 参加費の有無
なし
- 運営資金
市町村の助成金など
- お問い合わせ
代表(090-4401-9565)

取組の概要

毎週木曜日 10:00~16:00 の間、将棋、麻雀、盆踊りなど様々な催しに活用

- ・第 1.3 木曜日 10:00~12:00 盆踊り練習
(ダンシング Queen チーム(平均年齢 76 歳))
- ・第 2.4 木曜日 13:00 から 1 時間ほどの有志
による雑学・歴史・時事の話と動画
催しの後、車座になったの雑談お茶会

取組のきっかけ

老人会がなくなり、町内会員のふれあいの場が減ったことから、通いの場を始めました。
独居老人等の見守りや町内会員の交流促進、顔見知りになることで災害発生時等の円滑な助け合いができる環境づくりを目指して活動しています。

取組の結果

- ・参加者が自主的にお花見会、食事会を設けコミュニケーションが深まっています。
- ・盆踊り練習を、ダンシング Queen チームが子供たちに教える会を夏祭り前に設け、老人・子供・父兄の世代間交流ができ、夏祭りの盆踊りも盛り上がりました。
- ・ダンシング Queen チームを体力、気力の低下を理由にやめようとしていた方が、説得により継続した結果、体力気力とも回復し、メンバーの一員として元気に各催しに毎回参加されています。
- ・『在宅療養』の出張講座を開催し、新規の方も参加されるなど好評で今後も実施の希望がありました。



<選考委員からのコメント>

- ・老人会の解散という課題に対し、町内会役員や元役員が主体となって代替となる参加の場を作り、地域に根ざした持続可能な活動モデルを構築している。
- ・公民館を拠点に多様なイベントを展開する傍ら、ダンシングチームが牽引役となり世代間交流を進め、なおかつ啓発活動(在宅療養)にも目を向けており、上手い組み立てと思いました。
- ・地域の公民館を拠点に魅力的なメニューで老若男女問わず参加できる通いの場になっています。地域の皆さんの顔の見える関係づくりの場として、その輪が広がっていくことを期待しています。

基本情報

■ 主な活動場所

みよし市立福祉センター

■ 主な活動内容

健康体操

■ 運営主体

有志

■ 活動開始時期

2023年頃

■ 開催頻度

月4回

■ 参加費の有無

なし

■ 運営資金

市町村の助成金（講師料）

■ お問い合わせ

なかよし地域包括支援センター（0561-34-6811）

取組の概要

男性が気軽に参加でき、満足感のあるストレッチヨガの健康体操を実施しています。体調や痛みのことなど情報交換が行えて、健康インストラクターの先生からのアドバイスも受けられます。

参加者の口コミや包括の紹介で、近隣だけでなく市内全域からも参加があり、参加人数は増加傾向にあります。

取組のきっかけ

夫の定年後の閉じこもりやフレイルの進行を心配した地域の方々から、男性が気軽に通える介護予防ができる場所があると良いという思いがある中、インストラクターの先生から男性中心の集まれる場所を作りたいというお話があり、発足しました。

取組の結果

- ・参加者間同士の交流が生まれるようになり、早く集合してお話をしたり、先生にアドバイスを求める人もみられ、会を楽しまれています。
- ・男性が多い会なので、新規で参加した男性も溶け込みやすい雰囲気になっています。
- ・社会貢献をしたいという参加者の思いから、社協の紹介で障がい者施設の手入れや畑管理の支援も定期的に行うようになりました。参加者の得意なことを活かし、介護予防だけでなく、体操で培った体力を発揮して活躍できる場になっています。



<選考委員からのコメント>

- ・夫の定年後のフレイルを案じた妻からの要望に端を発し、そこに男性が乗せられて男性中心の通いの場ができた経緯が良いですね。
- ・健康インストラクターの活動が、地域活動へと広がりを見せている点が評価されます。近隣に限らず市内全域で参加を受け入れている点は、男性の通いの場への参画を促す大きなヒントとなりました。
- ・個人の健康維持を目的とした活動が、メンバー間の交流を通じて地域貢献へと自然発生的に発展しており、活動が新たな役割や生きがいを生み出すコミュニティとして機能している点が素晴らしい。

基本情報

■ 主な活動場所

小牧市第3老人福祉センター「田島の郷」

■ 主な活動内容

「こまき山体操」を取り入れた介護予防・認知症予防

■ 運営主体

ボランティア（こまき介護予防推進リーダー研修受講修了者）

■ 活動開始時期

2023年9月

■ 開催頻度

月4～5回（毎週火曜日）

■ 参加費の有無

なし

■ 運営資金

なし

■ お問い合わせ

小牧市社会福祉協議会（0568-65-7051）

取組の概要

市オリジナル「こまき山体操」の体操指導を「こまき介護予防推進リーダー養成研修」を修了したリーダーを中心に行っています。

小牧市リハビリテーション連絡会所属の理学療法士や作業療法士が通いの場を定期的に訪問し、参加者の効果測定を元に、個別に助言、フレイル予防に関する相談や、自宅でもできる体操等の指導をしています。

取組のきっかけ

代表者が民生・児童委員としての活動の時に、地域に外出する場がないことで引きこもった生活をしている高齢者が多いことを知り、何か役に立てたらと介護予防推進リーダー研修を受講。

市が新設した老人福祉センターを会場に、地域のリーダーの方々と協力して活動を始めました。

<選考委員からのコメント>

- ・市独自の「こまき山体操（介護予防）」として、社協のサポート体制もあって誰もが参加・参画しやすく効果測定の結果も還元も組み込まれ実効性の高い取組としました。
- ・専門職が体操開発や効果測定に深く関与し、参加する住民に安心感と質の高いプログラム提供ができている。参加者同士声を掛け合いながら、指導者と参加者の垣根をなくすことで、住民の主体性を高めている。
- ・測定会の記録を今後の健康増進活動に活用されることで新たな政策形成のヒントになると感じられました。

取組の結果

- ・定期効果測定の結果、参加者に体力の維持・向上がみられています。
- ・リーダーも参加者も毎週開催することで交流が深まり、みんなで声を掛けあい活動が続ける中で、自然とお互いを気遣いながら見守りの場にもなっています。
- ・リーダーの経験や個性を活かして、毎週輪番で、口腔体操や手遊び、歌いながら体を動かすセラピーなど多彩な取り組みをしています。
- ・男性のリーダーがいることで男性も参加しやすい雰囲気があり、参加者も徐々に増えています。



基本情報

- 主な活動場所
伊文福祉会館
- 主な活動内容
体操・脳トレ・講演会（フルート演奏・バルーン・語り部）
- 運営主体
ボランティア
- 活動開始時期
2000年4月
- 開催頻度
月4回
- 参加費の有無
あり（500円（昼食・おやつ代））
- 運営資金
市町村・民間企業の助成金、参加費
- お問い合わせ
代表（080-3659-2457）

取組の概要

理学療法士など地域のボランティア、市の看護師、包括職員と協力しながら、体操・脳トレ・野球ゲーム、コグニサイズ、モックルなど体や頭を動かす活動のほかフルート・太鼓演奏による音楽療法など様々な催しを行っています。手作りの昼食（お吸い物、ご飯、副菜）、おやつを提供もしています。

取組のきっかけ

介護保険制度開始時から、寝たきりにならずいつまでも元気に年を重ねるため宅老所を始めました。「だんだん」には、中国地方の方言の「ありがとう」という意味や「だんだんと皆が集まる」「暖かく迎え入れる」といった意味が込められています。

取組の結果

- ・参加者は、週に1回ここに来るためにおしゃれをして外出し、会では仲間と自発的に話をするようになり、だんだんを楽しんでいます。
- ・元気高齢者だけでなく要支援の方も参加し、介護予防だけでなく見守りの場にもなっています。
- ・ボランティアは毎回約20～25人の食事を作るため、ボランティアで活動する人の認知症予防にもつながっています。



<選考委員からのコメント>

- ・25年活動が続いていることがすばらしい。活動を継続するための秘訣がつかまっている。
- ・「週に1回ここに来るためにおしゃれをする」という声に象徴されるように、外出のきっかけと社会参加への意欲を創出している点が大変すばらしい。
- ・熱意と継続が大きな力になることを改めて感じました。参加者から運営者へと担い手が引き継がれ、未永く活動されることを期待しています。
- ・介護保険制度スタート時から25年という永きにわたる宅老所の運営実績は、代表者の人柄と熱意によるところが大きく地域になくはない存在となっており、ある意味歴史を作られたに等しいと思います。

基本情報

- 主な活動場所
羽根公民館
- 主な活動内容
体操やイベント、食事の提供
- 運営主体
ボランティア
- 活動開始時期
2023年頃
- 開催頻度
月1回
- 参加費の有無
あり(200円/1回)
- 運営資金
市町村の助成金、参加費
- お問い合わせ
扶桑町社会福祉協議会(0587-93-4300)

取組の概要

- ①案内状を配布することで、会の周知と合わせて見守り、安否確認を行います。
- ②参加者との会話の中で普段の生活での出来事や体調の変化を確認します。
- ③簡単な体操(ラジオ体操等)で体を動かします。
- ④昔馴染みの歌で合唱し、口腔を予防します。
- ⑤ボランティアの方を招き、オカリナ・三味線演奏・手品・クイズなど様々な催しを行います。
- ⑥手作りの食事で茶話会を楽しみます。

取組のきっかけ

時代の変化で核家族化が進み、独居の方が増え、コミュニケーションが薄れています。
民生委員の経験を活かし、皆で集まる場を作り、楽しく過ごせることを目標にサロンを始めました。

取組の結果

- ・参加者の口コミで参加者が増えています。民生委員、ボランティアなど地域のつながりから男性の参加も増えています。
- ・町内にある36団体の地区サロンの横のつながりで、ボランティアによる様々な催しを行い、参加者も会を楽しみにされています。
- ・認知症の方も、会に参加し、参加者同士交流するうちに笑顔が増え、「楽しい」との言葉が聞けました。



<選考委員からのコメント>

- ・民生委員、ボランティアなど一体となって、男性参加者を巻き込んでいるのが素晴らしい。
- ・おしゃべり、歌・音楽、軽い運動、お楽しみ等、誰もが気軽に参加できる内容で参加者が増え、所期の目的である「皆が楽しく集える場」づくりは着実に成果が上がっており、素晴らしいです。参加者が小さな挑戦を通じて達成感を味わえるようなものが加わるとさらに参加意欲が沸くと思います。
- ・民生委員など地域の役員からサロン活動へと役割を変化していく点は他地域の参考になると感じました。

基本情報

- **主な活動場所**
武豊町「北山構造改善センター」
- **主な活動内容**
体操、茶話会、家庭菜園等で作った野菜販売
- **運営主体**
有志
- **活動開始時期**
2022年4月
- **開催頻度**
月1回
- **参加費の有無**
あり(100円/1回)
- **運営資金**
社協の助成金(赤い羽根共同募金配分金事業)
- **お問い合わせ**
武豊町社会福祉協議会(0569-73-3104)

取組の概要

「楽しい!」があふれる場づくりのため、多彩な仕掛けを用意しています。

体操:集まりのはじめに体を動かし、心と体を活性化。明るい場の空気づくり。

野菜販売:農業をやっている人が多い地域特性を活かし、野菜を持ち寄り販売。

子供向けメニュー:ポップコーンやかき氷を用意。

声掛け:スタッフから積極的に声をかけ、初めてでも居心地のよい雰囲気づくり。

取組のきっかけ

「歩いて行ける場所に、みんなが集まれる場所をつくりたい」そんな1人の想いから、この活動は始まりました。北山地区では、公民館が遠くにあり、「近くに出かける場がほしい」という地域の声に応えるように、誰もが気軽に集える居場所を作りました。

取組の結果

- ・高齢者に限らず、障がいのある人や子ども、介護保険の要支援者、認知機能の低下が見られる人など、誰もが気軽に参加できる“地域のつながりをつくる場所”になっています。
- ・参加者の中から新たな運営スタッフが生まれるなど、地域の中で助け合いの輪が広がる好循環も見られます。
- ・地域の人が持ち寄った野菜を販売する取組があり、継続参加の動機づけにつながっています。
- ・スタッフは全員が高齢者で、「無理せず、楽しく」をモットーに、それぞれができることを分担(役割分担表はない)しながら運営しています。



<選考委員からのコメント>

- ・行政や社協主導ではなく、地域住民の提案から始まり、地域の共感と協力を得て実現した点は、地域活動の理想的なモデルである。
- ・人が集いやすい「声掛けの徹底」「無理せず楽しく」「居心地のいい場づくり」を大切する等、肩に力が入っていない自然な取組姿勢がとても良く、参加者が増える要因になっていると思います。
- ・農業が盛んという地域特性を生かし、野菜販売を目玉に多くの参加を得られています。

基本情報

- **主な活動場所**
西端下区民館
- **主な活動内容**
地域の交流の場として毎月楽しい企画を交え、お抹茶の提供などによる茶話会を実施
- **運営主体**
有志(西端ふくし応援団)、ボランティア
- **活動開始時期**
2018年11月
- **開催頻度**
月1回
- **参加費の有無**
あり(200円/1回)
- **運営資金**
社協の助成金(地域福祉活動助成金)、参加費
- **お問い合わせ**
碧南市社会福祉協議会(0566-46-3701)

取組の概要

- ①地域の様々な団体や事業者の協力を得て、落語や盆踊り、尿漏れ予防体操など参加者もボランティアも楽しく過ごせる催しを開催しています。
- ②お抹茶と茶菓子でゆったりと過ごしながらか、お話ができる時間も大切にしています。
- ③毎月町内会の回覧版でチラシを入れ、開催日、企画内容が分かるようにPRを継続しています。

取組のきっかけ

地域の困りごとを話し合った結果、「人のつながりが大切。所属に関係なく気楽に集まれる場所が少ない。」との地域の課題が確認されたため、「西端ふくし応援団」が発足しました。その後、何度も検討を重ね「地域の交流の場」として「cafe ちゃのま」の活動を始めました。

取組の結果

- ・回覧版や口コミで周知することで、新たな参加者にもつながり、既存の参加者にも開催情報が渡ることにより、安心して参加できるきっかけにもなっています。
- ・「cafe ちゃのまに続けて来ることが大切」と参加者の声があり、高齢者の外出の機会として、また、楽しみながら過ごす場所となっています。
- ・活動を続けることで、地域の団体や地域との関わりが広がりました。また、最近では、小学校とつながり、子どもと触れ合う機会ができ、楽しく過ごせる時間が増えています。



<選考委員からのコメント>

- ・地域の課題意識から住民が主体となって発足した活動であるという点が素晴らしい。多様な住民が地域で役割を担い、交流する機会を創出しており、共生社会の実現に貢献している。
- ・子ども・シニア・小学校を繋げた活動は今求められている共生社会に向けた素晴らしい活動です。
- ・元来の地元住民ではなくても地域活動の中心になれる活動のモデルだと感じました。
- ・地域の課題を地域で解決するため、住民一人一人の役割と出番が益々拡大していくことを期待しています。

基本情報

- 主な活動場所
傍示本公民館
- 主な活動内容
健康づくりリーダーによる健康づくり体操、軽い運動（ポッチャ等）、声出し（合唱等）、茶話会
- 運営主体
有志
- 活動開始時期
2018年4月
- 開催頻度
月1回
- 参加費の有無
あり（100円／1回）
- 運営資金
社協の助成金、参加費
- お問い合わせ
東郷町社会福祉協議会（0561-37-5411）

取組の概要

- ① 参加者が達成感と一体感を得られるよう、普段行っている懐かしい曲にあわせた体操を、お揃いのTシャツを着て、町の高齢者福祉大会の舞台上で披露しています。
社協主催ポッチャ交流会にも参加しています。
- ② サロンの案内を相手に合わせた方法でLINE・電話・声掛けなどでお知らせしています。
- ③ 皆で作って食べる楽しさを味わってもらいたいと考え、子育て世代も参加する多世代交流の場「みんなの食堂」を開催しています。
- ④ お互いを気遣う目印として、手作りの見守りバッチを配布しています。

取組のきっかけ

ひとり暮らしの外出促進、交流、おしゃべりをする機会を作りたいと思いサロンを立ち上げました。

取組の結果

- ・皆で町のイベントに出演したことが自信につながり、サロンへの参加意欲の向上と高齢者の生きがいづくりにつながりました。結束力が強まり、普段からお互いに助け合うことができるようになりました。
- ・声かけや連絡することで「自分のことを気にかけてもらって嬉しい」と感じる事ができ、参加への意欲につながっています。
- ・9月の認知症月間に向け、マリーゴールドを育て、オレンジガーデニングプロジェクトに参加することで、通いの場の活動が地域貢献活動にも広がっています。



<選考委員からのコメント>

- ・健康づくり体操から子育て世代と交流する「みんなの食堂」へと活動が発展していることが素晴らしい。
- ・代表が新たな挑戦を促し、誰もが意見を言えるフラットな運営が、多様な人材の強みを活かす土壌となっている。活動は他地域に共有され、先進的なモデルとして波及効果も生まれている点も素晴らしい。
- ・シニアにとって非日常的体験は、本人にとって「やりがいと繋がり」を実感できる素晴らしい活動だと思います。「花の種」や「手作り見守りバッチ」を参加者へ配布する事も繋がりに着目した素敵な活動と思いました。

通いの場情報掲載ページのご案内

以下のページで県内市町村の通いの場案内ページのリンクや案内窓口を掲載しています。

【愛知県 HP】通いの場情報掲載ページ

<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/chiikihoukatu/kayoinoba-info.html>



作成：愛知県福祉局高齢福祉課

地域包括ケア・認知症施策推進室 地域包括ケアグループ



〒460-8501 名古屋市中区三の丸三丁目1番2号

電話：052-954-6228

メール：chiikihoukatu@pref.aichi.lg.jp